

令和5年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	特別支援教育 部 会		
2 研究所員 事務所員 ◆: 代表者	研究所員 ◆和久井 達也 (大平南中) ・田端 省吾 (栃木中央小)	・岩崎 恵 (真名子小) ・岡 沙弥香 (西方中)	事務所員 ・飯田 浩子 ・井口 美香子



3 研究テーマ

どの子ども安心して学びに向かえる授業づくり

4 研究の取組

(1) 研究内容

対象児童生徒がもっている特性、うまくいっていること、つまずきがみられることをもとに、支援の仕方を考えていく。特に、それぞれの児童生徒の特性に合った授業における支援方法を検討し、その効果を検証する。

また、対象児童生徒以外の生徒にとっても効果的な支援だったかを検証し、研究テーマに迫る。

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月11日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月6日	研究テーマ・内容の協議
6月27日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月8日	授業参観
9月19日	研究テーマ・内容の協議		(西方中 岡先生 2年国語)
10月31日	授業参観 (栃木中央小 田端先生 6年国語)	2月8日	協議・まとめ
		2月16日	2年次経過報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・考えをまとめるための3つの視点を提示し、それぞれ同じ色の付箋に記入させるなど、視覚的な支援を意識することで、学習活動が明確化された。その視点がグループで話し合う際の論点にもなっており、まとめてから伝えるという活動の流れがつかみやすく、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・グループ活動の際、机の配置を横並びにすることで、生徒が心理的安全性を保ちながら安心感をもって学習に取り組むことができた。
- ・身の回りの社会問題についての解決策を考える際には、リンクマップという手法を用いて思考を可視化しながら話し合えるようにした。また、検索ツールとして話合いの途中でも適宜タブレット端末を使用するようにしたため、興味がわいた点や疑問点をすぐに調べることができ、集中の持続が困難な生徒も、最後まで主体的に話合いに参加することができた。
- ・対象児童生徒への手立てとして取り入れた支援は、対象児以外の児童生徒にとっても分かりやすく、効果的だった。また、教員や級友から安心感を得られる学級であることが、学びに向かうためのベースであることを再確認した。

【課題】

- ・対象となる児童生徒の特性を知るためのアセスメントを丁寧に行った上で、支援方法を検討していく必要がある。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

○児童生徒の特性を知るためのアセスメントを丁寧に行いながら、うまくいっていることをもとに、安心して学べるための支援方法をさらに検証していきたい。